

事業報告書

事業名：はこだて海の教室 with Youth (海と日本2024)

団体名：一般社団法人Blue Commons Japan

事業の目的

本事業の目的は、「中高生をパートナーとした地域実践型の海洋教育モデル拠点」を構築することである。これからの未来を生きる世代を巻き込み、海洋教育の可能性を広げるとともに、海の問題解決に向けた社会的な関心と行動の輪を地域から広げていくことを目指した。

事業の目標

本年度は、「中高生をパートナーとした地域実践型の海洋教育モデル拠点」を構築することを目指し、以下3つを目標とする。

- ①部活動の地域移行を見据え、中高生20名以上が参加する「海洋体験」をテーマにした学校を超えた「部活動=はこだてOceans」としてのあり方を構築する。
- ②中高生をパートナーとして、付度しない自由な発想で、新しい海洋教育を企画・実施してもらう。
- ③この取り組み自体を企画段階からメディアを巻き込み情報発信する。

事業内容

a. 中高生対象の海洋教育講座「はこだて海の教室」【連続4回講座】

【第1回】講義「いろいろ知ろう！コンブの生態や活用法」

【日時】2024年12月15日（日）

【会場】函館市地域交流まちづくりセンター（函館市末広町）

【講師】安井 肇 氏（北海道大学 名誉教授）

【内容】北海道各地で採れる昆布の種類や活用法についての講義、および昆布種苗の観察

【昼食】函館国際ホテル 木村史能総料理長による特別「海藻ランチ」提供

【参加者数】10名

【第2回】ものづくり体験「海藻由来の化粧水をつくろう！」

【日時】2025年1月13日（月・祝）

【会場】北海道マリンイノベーション（函館市）

【講師】布村 重樹 氏（北海道マリンイノベーション株式会社）

【内容】海藻の粘性多糖類について学び、実際にクリーンルームにて化粧水づくり体験。パッケージデザインも各自が担当し、完成品を持ち帰った。

【参加者数】10名

【第3回】ものづくり体験「オリジナル海藻石鹸をつくろう！」

【日時】2025年2月2日（日）

【会場】北海道マリンイノベーション（函館市）

【講師】布村 重樹 氏（北海道マリンイノベーション株式会社）

【内容】海藻と石鹸の関係について学び、オリーブオイルと海藻粉末を使用したマリン石鹸を作成。副原料（ガゴメ、アカモク等）を自由に選びオリジナルブレンドを実施。

【参加者数】10名

【第4回】まとめと未来を考える「海藻を通じて考える海の未来」

【日時】2025年2月16日（日）

【会場】函館市地域交流まちづくりセンター（函館市末広町）

【講師】布村 重樹 氏（北海道マリンイノベーション株式会社）

【内容】これまでの講座のふりかえり・ディスカッションを実施。「昆布の減少とその対策」や「新たな海藻活用」について中高生同士が議論し、最後には未来へのメッセージカードを作成。

【参加者数】10名

b. 中高生による小学生向け水族館体験講座「はこだて海の教室」

【日時】2025年3月9日（土）

【会場】はこだて朝市ミニ水族館（函館朝市駅二市場）

【講師・ガイド】高校生メンバー（函館高専成田さん）、協力：専門講師2名

【参加者数】小学生6名（女子4名、男子2名）

【内容】

海洋講座で学んだ高校生がガイド役となり、小学生向け的水族館飼育員体験講座を実施。前半は、海藻の役割や昆布の重要性についてクイズを交えた講義を行い、磯焼けや温暖化など海の環境課題にも触れた。後半はミニ水族館で、水槽解説・清掃・エサやり体験を通して、海の生き物や水族館の仕事への理解を深めた。参加者からは「魚がエサを食べる姿が印象的だった」「海のことをもっと知りたくなった」との声が寄せられた。

c.函館朝市でのミニ水族館の運営

■海水魚・海藻の展示。本年度も「函館の海を学ぼう」をテーマに、函館周辺の海に生息する魚や海藻を展示し、函館の海についてより深い学びを提供。【展示内容】ウマズラハギ、アイナメ、ホッケ、クロソイ、イシガレイ、サクラマス、ヤマメ、マフグ、ホテイウオ、マコンブ、など。

目標の達成状況

事業開始直前に発生した関係団体への風評被害の影響により、当初予定していた広報・準備期間の確保が難しくなり、参加者募集や連携体制の構築に支障が生じた。そのため、当初掲げていた3つの目標の達成は一部にとどまったが、事業内容を見直しながらも、実践的な成果と今後につながる学びを得ることができた。

①参加者数は10名となったが、学校や学年を超えた連続講座を実施し、協働的な学びを深めるモデルとして一定の成果を収めた。中高生が専門家と共に学び、探究し、自ら考えたアイデアを他者に伝えるプロセスは、地域型の“探究部活動”の可能性を示すものであった。

②講座最終回では、中高生が海の未来をテーマに自由な発想でディスカッションを行い、海藻を活用した新しい商品アイデアや環境保全の提案が多数生まれた。若者の主体的な学びと創造性が十分に発揮される場となった。

③外部への積極的なメディア発信は控えざるを得なかったが、CANPANブログを通じて全講座の内容を丁寧に記録・共有しており、今後の継続と発展に向けた基盤となっている。

事業の成果や成功要因

本事業では、中高生を対象とした体験型の海洋教育講座「はこだて海の教室」を全4回にわたり開催し、海藻という身近でありながら知られざる海の資源に着目することで、地域の自然や海の未来について考える機会を提供した。専門家による講義、昆布種苗の観察、化粧品や石鹼のものづくり体験、グループディスカッションなど、多彩なプログラムを通じて、参加者が「学ぶ・感じる・創る・伝える」の一連のプロセスを体験できた点が大きな成果である。

特に、海藻を食材としてだけでなく、化粧水や石鹼といった日用品に応用する体験は、海の恵みを生活の中で活かす視点を育み、参加者の関心と主体性を大きく引き出した。また、最終回に実施したディスカッションでは、天然昆布の減少や海藻の新たな活用可能性をテーマに、環境・産業・暮らしを結びつけた深い対話が生まれた。

こうした成果の背景には、地域の研究者や企業、ホテルシェフといった多様な協力者の存在と、それぞれの専門性を活かした協働設計がある。単なる体験にとどまらず、「海と人のこれから」を若者たち自身が考え、語り、未来につなげていく場として本事業を位置づけたことが、事業の成功要因のひとつである。

事業の課題や改善点

【課題点】

①外的要因による影響で、広報期間が確保できず、参加者募集に支障が出た。

②「海藻」「海の科学」といったテーマが中高生の日常と直結しづらく、関心を喚起する導線設計に課題があった。

③中高生の参加機会が限られており、継続的に関われる仕組みづくりが必要だと感じた。

【改善点】

①早期から学校や地域と連携し、年度初めからの広報体制・説明機会を確保する。

②“海の恵みを生活で活かす”など、より身近な視点から伝える導入コンテンツを整備、講座内容の興味を高める。

③年間を通じた小さな接点（見学会・ワークショップ）を継続的に設けて、深く関わる人材の裾野を広げていく。